



青少年育成ビジョン(子どもの未来はまちの未来)

基本理念 「子どもの未来は まちの未来」

基本理念

●次代を担う青少年の育成は社会の責務であり、まちの未来

今日、我が国は少子化・人口減少社会という人口構造の急激な変化の下、家庭、学校、地域、情報など青少年を取り巻く環境にも大きな影響が及んでいます。これらの社会の変化は、ボランティアや国際貢献などに取り組む若者の増加といった、よい影響をもたらしている一方で、青少年の犯罪、薬物乱用、自殺、虐待など様々な問題を深刻化させ、新たな社会的問題となっています。21世紀を生きる青少年を健全に育成するには、学校・家庭・社会が連携をとりながら、その役割を認識し、子どもたちを育てていく環境を整えていく必要があります。そのために、子どもたちが、スポーツ・ボランティア・自然体験・社会体験等を通じて社会性や主体性を習得し生きがい・個性を伸ばしていけるような活動の場を提供していくことが効果的です。

- 青少年期は、人としての根を張り、幹を伸ばし、人格の基礎を形成していく大切な時期
- 青少年には、成長していく上で家族や社会の支援が欠かせない
- 青少年は、次代の担い手であり、未来への希望を託す貴重な存在

「青少年は地域社会から育む」という観点に立って、地域社会の構成員である家庭、学校、地域住民、企業、民間団体、関係機関が、開かれた関係を構築し、地域で一体感をもった自主的取り組みをしていかななくてはなりません。

基本計画

●家庭(食育)を通じて

●食生活の乱れなどにより、子どもたちの健康面や精神面への悪影響が社会問題となつていきます。子どもの頃から「食」の安全や「農業」の重要性、「食育」の大切さなどについて関心を持ち自ら考える習慣を養うことが重要です。子ども達の元気な心と健やかな成長を願い取り組んでいきます。

●スポーツを通じて

●スポーツ・武道への取り組みは、その鍛錬を通じて自身自身の高揚や成長がテーマとなり、心身共に健全な自信・強さを備え「感動」を生みます。又、礼儀・礼節を身に付け実社会の中で生きていく基礎を学び、良き友達づくり・人を思いやる心・豊かな心人間づくりに繋がります。

●ボランティアを通じて

●社会や人の役に立つ事によって、自分自身が元気になることや、生きがいが生まれることを経験してもらおう。子ども達のボランティア活動など多様で豊富な体験の機会と場を積極的に提供し、生きる力の核となる豊かな人間性(自立心、自己抑制力、責任感、他人を思いやる心)を育てていきます。

●コミュニティを通じて

●人間が人間らしくあることは、人としてのコミュニケーションの中で得られると思えます。人に認められる幸福感や、人に関わる充足感などがそうであるように、人と人との関わりが大切です。少々の対立や葛藤があろうが、それ乗り越え自分自身を進化させていける、これがコミュニティのもつ教育力です。

実施計画

- ・セーフティスクールのワークショップ
- ・挨拶・声かけ運動
- ・世界平和ボスターコンテストの実施
- ・次世代育成プラン・子育て支援
- ・教職員の方との連携・ライオンズスクエストプログラムの活用
- ・児童保護施設等への訪問・助成
- ・地域社会に貢献する青少年を表彰
- ・青少年育成に取り組む団体への協力や支援
- ・地域住民と子ども達の交流会
- ・防犯看板やステッカーの設置や「安全ポケットベル」の提供
- ・We Love 石手川を体験学習
- ・「ダム・ゼツタイ」普及運動街頭パレード
- ・ポイスカウトへの助成
- ・NPO法人 日本カーティアンエンジェルスへの協力
- ・自然とのふれあい教室
- ・小・中学校にボランティア活動のクラブを結成する為の支援
- ・子ども達と学びながら遊べるイベント
- ・ライオンズカップジュニア空手道選手権大会の開催
- ・松山白鷲ライオンズカップのスポーツ大会を推進
- ・スポーツ振興への協力
- ・ヤクルトスワローズや愛媛マンダリンパイレーツの野球教室
- ・愛媛FCのサッカー教室
- ・ジュニアスポーツ大会への協力
- ・ジュニアスポーツ指導者の育成
- ・豊かな人間性を育むような食生活を目標とする「食育」の普及
- ・正しい食事マナー体験の場を提供
- ・食への事の大切さの教育(いただきますの心)
- ・農作業体験(地産地消)
- ・「もったいない」の心
- ・母親子育て相談会 子どもをほめる運動
- ・家族揃って会話のある食事のすすめ
- ・キッズ・SO14000sに家庭での取り組み